

第五学年〇組 図画工作科学習指導案

題 材 だんボールでためしてつくって ～なんちゃって〇〇展 in KURUME～

指導観

- 〇本学級の子供たちは、これまでに、材料や用具の操作から表したいことについて発想したり、材料の組み合わせ方を工夫して立体的に表したりすることができるようになってきている。しかし、立体の全体的な感じや立体を構成する部分に着目しながら表したり、立体にするための組み合わせ方の工夫を試行錯誤しながら表したりする経験は十分にできていない。そこで、様々な材料や用具についての経験や技能を総合的に生かし、多様な表し方を組み合わせながら立体として表すことができるようになるこの期に本題材を取り上げる。そして、材料の特徴を生かすとともに、材料を立体として表すための多様な表し方を組み合わせ、自分なりに表現することができるようにする。このことは、つくりだす喜びを味わうとともに、楽しく豊かな生活を創造しようとする子供を育てる上からも意義深い。
- 〇本題材は、段ボールを用いた多様な表し方を試すことを通して、段ボールを組み合わせて表すことができる立体のイメージをもつことができるようにする。また、現代美術家である日比野克彦氏による段ボールを用いた作品との出会いにより表現欲求をもつとともに、段ボールを用いた多様な表し方を組み合わせ、立体に表すことができるようにする。このことは、本学級の子供たちにとって、段ボールで表す立体のイメージ、加工の仕方や組み合わせ方について他者と吟味しながら表現し、つくりだす喜びを味わう上で適した題材である。
- 〇本題材の指導に当たっては、段ボールを用いた多様な表し方によって表すことができそうな身の回りにある物についてのイメージを膨らませ、材料の加工の仕方や組み合わせ方を工夫しながら表すことができるようにする。そのために「なんちゃって〇〇展 in KURUME」を教材として設定する。特に本時指導に当たっては、まず、導入段階では、AR で日比野克彦氏の作品を鑑賞し、全体を構成している部分の特徴に着目しながら表すめあてをもつことができるようにする。次に、展開段階では、身の回りにある物のイメージに合わせて組み合わせ方を工夫し、全体の量感や全体を構成する部分の大きさや方向によって表すことができるようにする。最後に、終末段階では、学習者用端末で前時と本時の表現物を比較し、組み合わせ方を工夫して表すことができた満足感を味わうことができるようにする。

目標

- 1 段ボールを用いて表現される立体としての形の特徴を理解するとともに、段ボールの多様な表し方を試したり加工の仕方や組み合わせ方を工夫したりして、身の回りにある物を創造的に表すことができるようにする。
- 2 段ボールを用いた作品の造形的なよさや美しさ、段ボールで表すことができる物について考え、創造的に発想や構想をしたり、日比野氏や友達の作品から自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 3 段ボールを用いた表現や作品の鑑賞に積極的に取り組み、段ボールを別の物につくりかえる喜びを味わうとともに、価値を見いだした段ボールと積極的に関わりながら、豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

計画（4時間）

- 1 日比野克彦氏の作品と出会わせ、段ボールを用いた表現の意欲をもたせる。————— 1
- 2 段ボールを用いた表し方を試行錯誤させ、工夫して身の回りにある物を表現させる。————— 2
(1)身の回りにある物のイメージについて……………① (2)組み合わせ方の工夫について……………①本時
- 3 着色してつくりあげた表現物を鑑賞させ、自他の表現のよさや美しさを味わわせる。————— 1

本時 令和6年6月15日（土曜日） 第2校時 図工室において

- 主眼** 1 身の回りにある物のイメージを、段ボールを重ねる、差し込む、貼る、並べる、巻くといった組み合わせ方の工夫をした時の全体の量感や、全体を構成している部分の大きさや方向によって表すことができるようにする。
- 2 段ボールの組み合わせ方を工夫して身の回りの物を表す活動を通して、段ボールを組み合わせた時の全体の量感や、全体を構成している部分の大きさや方向のよさや美しさについて話し合うことができるようにする。

準備 段ボール、段ボールカッター、カッターナイフ、グルーガン、ボンド、学習者用端末

過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用			
導入	<p>1 日比野克彦氏の作品を鑑賞し、組み合わせ方を工夫して表現していくめあてについて話し合う。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・切り分けたケーキの断面は段ボールを何枚も重ねて表していたのだね。 ・紙を巻いた物をたくさん並べて、苺を表しているね。 	<p>○工夫して表現するめあてをもつことができるように、全体の量感や、全体を構成する部分の特徴が表れている日比野克彦氏の作品をARによって鑑賞する場面を設定する。</p>			
展開	<p>段ボールの組み合わせ方を工夫して、イメージした身の回りにある物を表そう。</p> <p>2 段ボールの組み合わせ方を工夫して、イメージした身の回りにある物を表す。</p> <p>(1) 前時の表現を振り返り、身の回りにある物を表すための組み合わせ方について見通しをもつ。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ざるそば盛器の竹簾は、段ボールの紙をはがして表してみようかな。 ・細く切った段ボールをそばにしてみよう。 <p>(2) 見通しを基に段ボールの組み合わせ方を工夫して、身の回りにある物を表す。</p>  <table border="1" data-bbox="225 1256 938 1406"> <tr> <td>細長く切ったものを巻いて、そばを表した。</td> <td>はがした段ボールを重ねて、盛器を表したよ。</td> <td>切ったものを貼り付けて、飾りの葉を表した。</td> </tr> </table> <p>(3) 中間鑑賞を行い、組み合わせ方の特徴について話し合う。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールを重ねたことで、ざるそば盛器の存在感が表れている。【量感】 ・段ボールを巻いたことで、本物のそばのねじれた感じが表れている。【部分の方向】 	細長く切ったものを巻いて、そばを表した。	はがした段ボールを重ねて、盛器を表したよ。	切ったものを貼り付けて、飾りの葉を表した。	<p>○組み合わせ方についての見通しをもつことができるように、前時までに試した段ボールを用いた表し方を学習者用端末で振り返る場面を設定する。</p> <p>○多様な組み合わせ方の工夫に気付くことができるように、組み合わせ方を工夫している児童の表現やその意図を板書に提示する。</p> <p>○組み合わせ方による効果に気付くことができるように、「組み合わせ方を工夫したことによってどのような感じが表れましたか」と発問する。</p>
細長く切ったものを巻いて、そばを表した。	はがした段ボールを重ねて、盛器を表したよ。	切ったものを貼り付けて、飾りの葉を表した。			
終末	<p>3 段ボールの組み合わせ方の工夫について振り返り、本時の表現をまとめる。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ざるそばの盛器やそばの感じを表すことができ嬉しい。 ・段ボールの色々な組み合わせ方の工夫ができるようになった。 <p>段ボールを重ねたり、差し込んだり、貼ったり、並べたり、巻いたりする組み合わせ方を工夫して、イメージした身の回りにある物を表すことができた。</p>	<p>○組み合わせ方を工夫して表すことができた満足感を味わうことができるように、学習者用端末を用いて前時と本時の表現物を比較する場面を設定する。</p>			